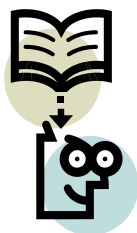


科 目 名	畜産	単 位 数	2 単位	学 科 ・ 学 年	畜産総合 科 1 年	
使用教科書	畜産	実教出版	副 教 材 等			
学 習 目 標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) 家畜の飼育と畜産経営について 課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 科目「総合実習」の食品製造分野の実習と関連させて学習をすすめる。 1年から3年生まで分割履修になっているこの科目では、各学年で主に学習する家畜を定め、1年生においては総論から養鶏をを中心に据えた学習を行う。					
学 習 評 価	○次の三つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。					
	①知識・技能	家畜の飼育と畜産経営について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。				
	②思考・判断・表現	家畜の飼育と畜産を経営する学びをとおして課題を発見し、科学的根拠などに基づいて創造的に解決している。				
	③主体的に取り組む態度	家畜の飼育と畜産経営について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。				
		評価方法\観点	①	②	③	
		学習状況観察	◎	○	◎	自己評価・実習での取り組み姿勢
		プリント教材	—	—	○	提出プリント
		ノート提出	◎	○	○	学習シート
		定期考査	◎	◎	—	確認テスト・定期考査
	※表中の◎は観点の中でより重視するところです。					
履 修 上 注 意	○授業形態は座学が中心ですが、プロジェクト学習として鶏の飼育を行いますので、朝夕の餌やり・水換え・体重測定など当番実習を行います。 ○実習を伴いますので、各種提出物や定期考査同様、実習へ取り組む姿勢・態度についても評価をします。					

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1	4	1. 日本の畜産の特徴と役割 (1) 日本の畜産の特徴 (2) 日本における畜産物の需給の動向 (3) 畜産の役割 (4) 科学の発展と畜産への活用	8	畜産の歴史や今日の動向を理解する。 鶏の飼育を通して家畜の成長や仕組みを理解する。	・学習状況観察 ・自己評価 ・出席状況 ・1学期中間・期末考査
	5 6	2. 家畜の生理・生態と飼育環境 (1) 家畜の生理・生態 (2) 飼育環境の調節 (3) 家畜排せつ物の処理と利用	14	家畜の健康や生産能力に影響を与える環境要因を考え、家畜の飼育環境の改善や調節を行うことができる。 家畜の成長や繁殖の仕方、生産の仕組みを理解し、その家畜の特性に合わせた飼料給与や飼育管理を行えるようになる。	・学習状況観察 ・自己評価 ・出席状況 ・2学期中間・期末考査
	7 9	3. 家畜と飼料 (1) 家畜の栄養と栄養素 (2) 家畜の消化器官と飼料の消化・吸収 (3) 飼料の特性と給与 (4) 飼料作物の調製と貯蔵 (5) 飼料作物の特徴と草地の管理	14	家畜と栄養の概念を通して、食料生産における畜産と飼料の関係について、その課題を考える。 各家畜の消化器官と消化・吸収について、特性を理解し飼料給与を行うことができる。	・学習状況観察 ・自己評価 ・出席状況 ・2学期中間・期末考査
2	10 3	4. 家畜の飼育(養鶏) (1) ニワトリの体の特性 (2) ニワトリの品種と選び方 (3) 施設・設備とその利用 (4) 繁殖の生理 (5) 種卵～ふ化 (6) 育すう (7) 産卵鶏の飼育管理 (8) 肉用鶏の飼育管理 (9) 予防衛生と病気 (10) 養鶏の経営 (11) ニワトリの実習・実験・観察	34	高知県特産鶏はちきん地鶏の飼育と並行して授業をすすめることで、家畜としてのニワトリについてより深く理解する。	鶏の各部位の名称を覚える。 生育段階ごとに適切な飼育環境を整え、飼料を給与する。 飼料摂取量調査・体重測定を定期的実施する。 飼育日誌に記録をとる。 と畜・解体・考察を行い、レポートを提出する ・学習状況観察 ・実習評価 ・自己評価 ・出席状況 ・2学期中間・期末考査 ・学年末考査
			70		